

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第一部 労働者状態

I 労働人口の構成

3 一九八〇年の社会階級構成表

本年鑑では、総理府統計局が五年目ごとに実施する各回国勢調査の結果報告により、その「従業上の地位」と「職業分類」別人口を一定の手続きのもとに組み替え作成された社会階級構成表によって、わが国における基本的な社会階級すなわち資本家階級と労働者階級およびその中間階級とみなしうる自営業者層の三大社会集団、そしてまたそれ自身としては労働者階級中の一構成部分でありながら、特種な意識形態と行動様式をもつことによって、それとは区分して考えられる自衛官、警察官その他の保安サービス員からなる社会集団のそれぞれについて概観してきた。同じ手続きによって、一九八〇年の第一三回国勢調査一%抽出速報結果を組み替え社会階級構成表として示したものが第5表である。これによって、わが国の最近の社会階級構成の変化の特徴点についてみれば、およそつぎのごとくである。

(1)一九八〇年におけるわが国の社会階級構成中、資本家階級は三六二万人(労働力人口の六・三%)であり、七五年以後の五年間に約四二万人を増加したが、その大部分は会社役員と管理職員の増加によっている。

(2)自営業者層一五六〇万人(同二七・三%)は、全体として過去五カ年間に絶対数においても構成比でも減少しており、とりわけ農林漁業従事者の減少傾向がひきつづき、八〇年には構成比で九・八%とはじめて一〇%を割った。

(3)労働者階級は三七〇九万人、同じく五年間に約二六五万人を増加し、構成比も六五%を占めるにいたっているが、いわゆる経済の「高度成長」期にみられたような量的増大が鈍化する一方では、すでにふれたような「サービス経済化」社会への移行などにともないその内部構成に大きな変化がみられる。すなわち物的生産の直接的な担い手である生産的労働者層の比重を低めているのにたいし、専門的技術的職業従事者、販売従事者、事務従事者はその比重を高めている。もっとも増加のいちじるしい専門的技術的職業従事者とは科学者、技術者、教員、会計士、医師、福祉職員、ジャーナリスト、芸術家などをふくむが、この層の急増は一面では機械・電気技術者、情報処理技術者などの増大にうかがえるように物的生産過程の革新や産業構造の高度化を反映しており、他面では医療・保健、社会福祉、文化・教育従事者の増加など社会生活や消費構造のうえでの変化を示すものといえる。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

